

11/19 高松発 四国汽船 8:12発

直島までは50分。カンゴの下調べとか、船内探検とかうとうとしたりすると
あ、という間に直島、宮浦港到着。

私はホホ徹夜だったので、乗船後すぐに寝てしまい、気がついたら直島。

昔の宮浦港は、恐ろしいほど何も無くて、ひどく細かたのだけれど、

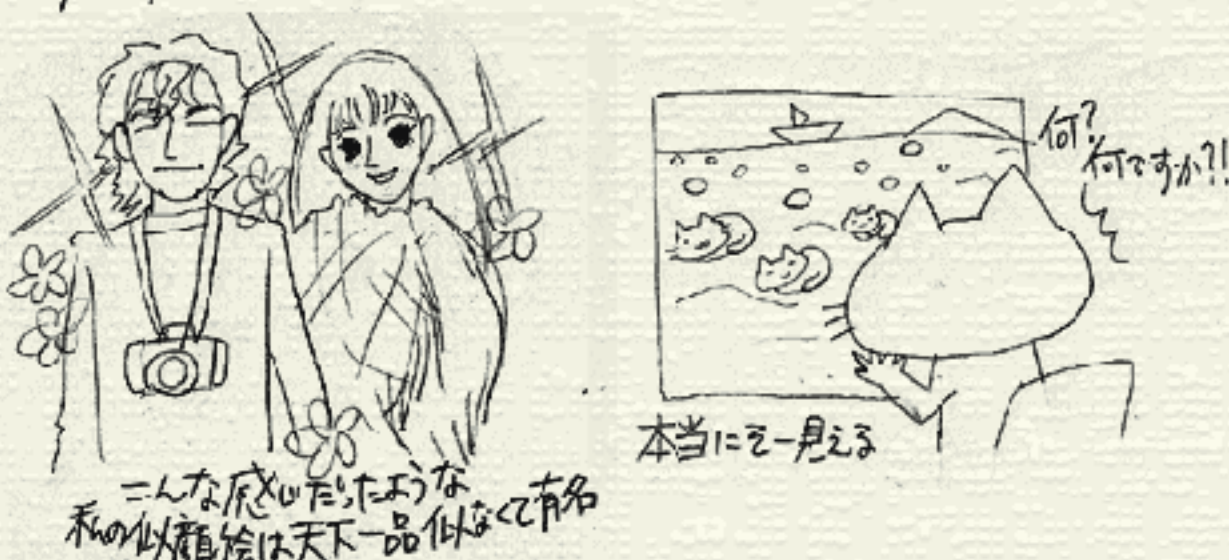
昔の宮浦港は、恐ろしいほど何も無く、今は立派な案内所も出来て不思議。あのバス停ひとつの巻も見知らぬ土地に降り立たとカーッと演出しているかのようで良かった。けどね。



宮浦老発大島行 9:25発

海から港に向けて左手にある小型船のり場には、
30人乗りのラブバード号。運賃は片道2000円!!私のほかにはカップル1組と
女の子ひとりと、女の子2人組。私の前の席にカップルが座ったんだけど"美男美女"
船の中で、2人に前髪にカーラー巻いていたのが可愛かった。美男美女はや、ぱり
色々気をつかっているのかしらね。

小型船は瀬戸内海のディープな海域を40分。
途中、海の上に猫がたくさん丸まっているのが見えて、「何だ?何だ?!!」と思った。
丸くて大きなブイがたくさん浮いているだけだった。定置網かなー?



大島着 10:05

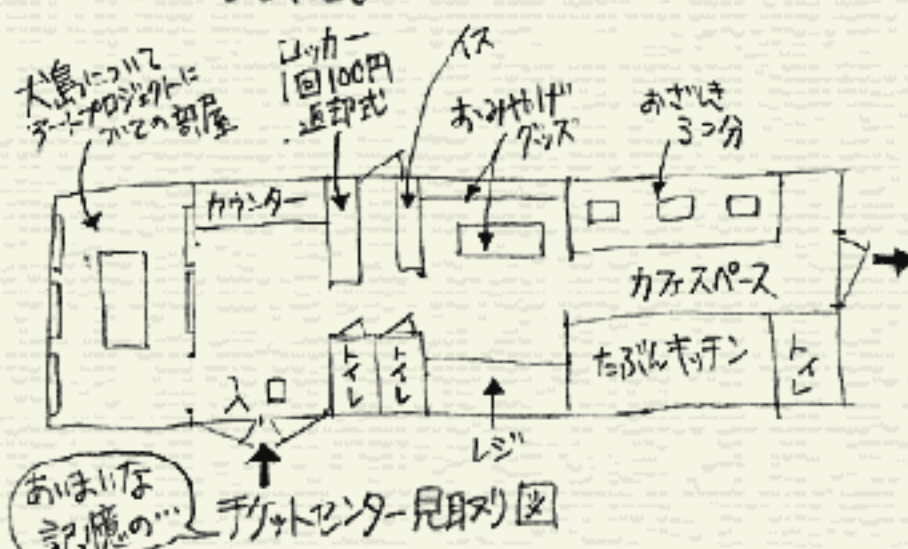
大島着 10:05
 巻(?)の目の前が干潟センター。黒い建物ほのどかな島で異質な
 感じもはけれど、最初に置いた花口の駒みたいに、これから広がる
 シンボリックな雰囲気まんまん。予兆を抱える黒い建物。

冬の平日、朝イチのツアーだったのよ。「たぶん私に初めて5組くらいいたのよー」と思っていたら、団体ツアーが入っていて仰天。私は甘かった…。



大島ツアー 10:20~

ツアーのメンバーは、船で一緒に来たカップル&女子ひとり&2人組。
ちなみにツアーは事前予約制(3日前まで)で1,000円。
カフェスペースの奥から出発。



鉄柵のゲートを入り(オトロク)精錬所エリア。
黒なレンガの壁が連なる重苦しくも作られたばかりではない
歴史という下地が醸しあげる荘厳なインパクト。
黒光りするレンガは、かつて、この精錬所が操業していた時に、
銅の精錬過程で副産物として作られたカミレナとヤモウ。
鉄や銅を含む(銅は20%)ためやたらと重く、壊れやすい。
けれども、まじまじとカミレナを見ると様々な形、色を持ち表情豊か。
そのひとつ自体が作品として完成しているようにも見えてしまう。



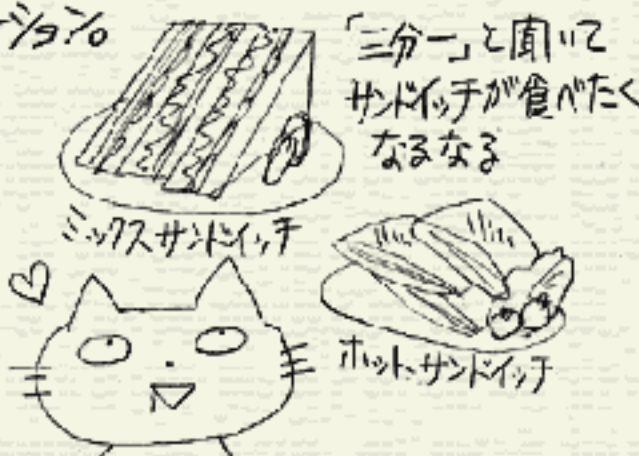
お気に入りのレンガを見つけるのも一興。

カミレナのゾーンをぬけて「近代化産業遺産」のゾーン。
草木の中を、わさわさと。廃墟でももう落ち着いたけど、軍艦島に
物を生み出していた廃墟、圧倒的。
ここで何が(人物資)どう表現していたのか(意外な所にタテカがあったり)
そういう事をあまりながら想像すると、ふと頭に再現できる瞬間が
あって、階段の横を工員がすりぬけて行くような錯覚が覚える。
銅の精錬は相当に過酷だったはず。多くの人々が日々汗水たらし、辛さを思い
働いて——たまたま100年前の出来事は、今おとがたも無く朽ちてしま。
私たちの日々も、思いもいつか同じように朽ちてしまうことを思うと、この廃墟も
未来の夢に見えてならない。



私は立派な建物を観ると
廃墟になった姿を想像してしまう。

さて、次は精錬所。建築家「三好博志」氏とアーティスト「柳井英」氏の
コラボレーション。



室内作品は3つあるのだけど、最初の作品... エアがスリッパに
「どう...」と作品だ。た。
真暗な通路の先に光が見える。
それに向って歩く。それだけ。
けれども、誰も歩を進めず躊躇。どういうわけか! 進んでよいのかわからない
気持ちにさせる。
「じゃあ最初歩いてもらえますか?」と、グループの先頭にいた私が促されて
一歩。
轟々と風を切る音が、突き落とされ落ちていくような音に聞こえて
ひどく不安にさせられる。
光はわけに遠くに感じるし、光の先には風景らしきものひとつ見えない。
真暗で狭い通路から光に向って進んでいると自分が産道を通る
胎児になったようで、その光が「恐ろしい、嬉しい、感じる」
右にも左にも揺れな、奇妙な高揚感。

グループの人

これは、ケンカにでも一番最初に歩く人

その後の2部屋は、1つは小さな作品、もうひとつは大きな作品だけど
Webなどでも写真が出てるので割愛。... というか最初の作品が
印象深すぎて、その後の2作品はフルコイルコース後のお茶漬けみたく
なりました感が...

まーとにかくケンカにでも最初の一歩を踏み出しましょう。



今後精錬所入口での
ケンカは恒例となることでしょう。

ツアー終了。乗船まで

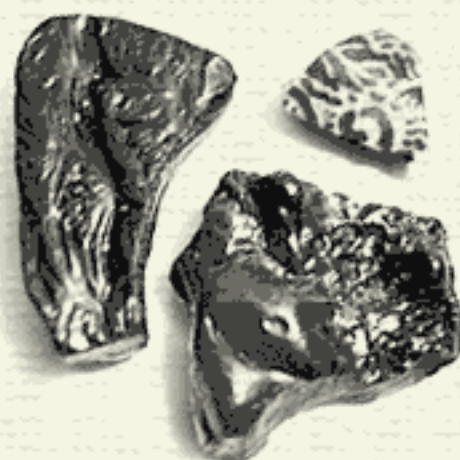
ツアー終了後、1時間ばかり時間が出来たので、海岸を歩いてビーチコミング。

100年前に栄えた地だから、明治あたりの陶片があるかなと思っていたけど、成果は糸刷り印判のハシなケラがひとつ。

でも大島らしいお土産となりそうなものが！カラミレンガのかけら！

真黒なカラミレンガのかけらが浜にたくさん。

2つ、大きさと形が良いものを選んでお土産に。



おなかが減ったので「チケットセンター」内のカフェで「たこめし」700円。曲げわっぱに入った甘めに味付けされたたこめしが美味しい！たこは、ふんわり柔らか。三つ葉と針しょうががアクセントになってとても上品な一品。お昼に丁度よかった。



大島港 宮浦港行 13:05

なんと！帰りの船は貸切状態!! これじゃあ片道2000円で宅仕方がないのかなあ”。

